

時局日誌（十）

Y
H
生

五月十一日 敵爆撃機十數機固鎮附近に飛來し爆弾十數個を沼池田畑に投下したが我が地上砲火の攻撃に遭ひ忽ち西北方に遁走した。又此の夕我が〇〇部隊は鄆城を確實に占領した。

五月十二日 支那軍第百七十師の守備せし安徽省の北部の要衝蒙城に於て我が軍の猛攻撃に依り副師長周元中將は戦死し守備の支那軍の大半は死傷し城内は焦土と化し立體的日本軍の猛襲に殆ど全滅して諸城は完全に陥落したと此の日支那紙は自認的記事をかゝげた。

蒙城を占領した我が軍は疾風迅雷の勢を以て進軍を續け〇〇部隊中央部隊は任

家集より十二日早朝行動を起し明家河、唐集子趙莊を相次で攻略、更に正午過ぎ猛進を續け同夕刻滻河南岸の韓村集を完全に占據した。又左翼〇〇部隊は吳家集より進撃杏南湖を一氣に陥れ更に馬庄を過ぎ午後三時過ぎには早くも臨渙渠を占領した。かくて滻河の南岸及び西岸は完全に我が手中に歸し固鎮、宿縣の敵の西北兩方面に於ける退路は完全に断絶された。

五月十三日 濟寧から北上して黃河南岸の支那軍策動の根源地であつた鄆城の攻撃は壯烈を極めたが攻撃は疾風の如く、一瞬のうちに決せられた。即ちわが北上部隊は十日午後四時鄆城陣地と前線據點たる八里河（鄆城東南方凡三キロ）で迫撃砲、機關銃を有する敵軍凡一千八百と遭遇、黄昏の白兵戦を開いたが交戦二時間にして撃破、これを占領、更に敗敵を追つて鄆城の主陣地に突入、翌十一日に是これが完全肅清を終り高らかに凱歌を奏し支那軍の黃河北岸への野望を永久に粉粹した。敵軍の遺棄死體一千二百、わが死傷五十餘名に過ぎなかつた。

五月十四日 山東省最南端を南下中の我が部隊は行動開始以來、逐次戰果を挙げつゝ堅壘を誇つた敵の既設陣地を撃破、十四日午後四時遂に敵の重要據點たる

金鄉を占領した。

各部隊の荒蠻は勇躍して出發、炎天下に惡路を切り開いて進出する岩伸部隊等の空を旋回して敵狀を監視すると共に同部隊に情況報告、機上よりの食糧彈薬投下を行つた、午前十一時碭山東南方韓道口集附近に敵一千名が集結してゐるのを發見、爆彈を投下した、この機を逸せず

我が軍は狼狽する敵大軍を尻目に同所を迂回して一路目的の隕海線へ駆進目指す隕海線を突破し感激の日章旗を掲げたのであつた。

五月十五日 南進部隊の徐州包圍戦はこの一兩日來の隕海線最右翼陣地の急激な南進々撃によつてこの二、三日前までは韓莊、台兒莊、邳縣、新安鎮と隕海線に並行して一直線の形をなしてゐた膠着線が次から次へと崩れ、十六日夕刻の形勢では徐州を取り巻いて半圓形の理想的な包圍線を現出した。

北上部隊は徐州を中心で壘集せる敵部隊を一舉に屠らんと北上したわが精銳部

隊の一翼として蒙城永城を續けさまに陥れた皇軍諸部隊は十六日午後一時碭山の東方隕海線上の汪閣東南約六キロの湖家口を占領すると共に一部は同日午前二時薛家寨附近を通過し一路徐州を目指して張大屯東北地區を急進中である。

又北上部隊の中堅として永城より蕭縣に向つた諸部隊は十六日午後一時瓦子口に達し約五千の敵と遭遇したが激戦のちこれを擊破し蕭縣南方地区に進出、彼方に徐州を望み勇氣凜々たるものがある瓦子口附近の戰闘は猛烈を極め敵の遺棄死體約六百に達した。

右諸部隊と聯繫し東南方より攻撃中の○○部隊は愈々宿縣に肉薄しつゝあり、又一方右翼より進撃中の○○部隊は固鎮西方約四里の大營集を占領、又○○部隊は津浦線東西の地區より頑強に抵抗する

固鐵南方の敵を席捲しつゝある。

五月十六日 我が軍の永城占領に際し入手した敵司令部の遺棄書類中に蒋介石の各級指揮官に與へた訓令が發見された、その内容は次の如くである。「日本軍は速かに優勢なる地位を獲得せんとし主力を擧げて隕海線方面に集中一舉にその目的を達成せんと努めてゐる。然し如何に焦つてもこの方面に集め得る兵力は最大限十萬を出ないだらう、これに反して我が軍は日本軍の五六倍の優勢である。我が忠勇なる將兵はよくその理を辨へ須らく必勝の信念を以て任務に邁進し各々當面の敵を殲滅せよ」

五月十七日 支那事變ニ際シ召集中ノ者ノ選舉權及被選舉權等ニ關スル法律(五、

一八、法律第八四號)公布
同上法律施行ニ關スル件(五一八勅令第
三三三號)公布

北支那開發株式會社及中支那振興株式會

社政府出資財産評價委員會官制（五、一
八勅令第三三五號）公布

對支文化事業特別會計資金運用規則（五
一七、勅令第三三七號）公布

廈門その後の狀況は次の如し市内は極めて
平靜なり、良民の當中その他に避難せ
るものも歸宅し門戸を開き市内往來漸次
増加し敗殘兵の山中に遁入せるものは殆
どこれを平定せり。陸戰隊司令官は市内
治安維持のため良民代表者を集め懇切な
る指示と市民心得を諭示し一般民衆にこ
れを徹底せしむ、而してこれ等市民代表
は市民と陸戰隊との連絡に當らしめし
あり、廈門市内の帝國權益は外觀舊態を
存してゐるが邦人引揚げ後市當局及び支
那軍より占據せられ大部分は慘澹たる狀
況に破壊せらる、その主なもの左の如し
一、三井洋行は市政府教育會これを使用
し書類は破棄され又倉庫も破壊されて
ゐる。

二、大阪商船會社事務所は稅警隊これを
使用し器物は總て破壊され慘澹たる狀
況なり。

三、旭瀛書院は市防空署として使用し内
部の物品の殘るものなし。

四、その他日本警察分署も殆ど破壊され
日本人商店は殆ど商品を持去られ屋内
散亂甚し。

五月十八日 庶民金庫法施行期日（五月二
十日）ノ件（五、一九、勅令第三五九號）
公布

五月十八日 庶民金庫法施行期日（五月二
十日）ノ件（五、一九、勅令第三五九號）
公布

朝鮮道路令（制令第一五號）公布

佛紙ジユルナル紙にジヤン・フォンテ
ノア氏が「東亞史に一轉機」と題して左
の如き評論を試みて居る。『歐洲の政情
不安に氣をとられてゐる間に三週間前か
ら支那の歴史に特筆すべき大激戦が展開
しつゝあるのだ、津浦線と隕海線との交
又點にある徐州は頗る地理的重要性を持
つもので、こゝで北支及び中支の日本軍
である。

が合體せんとする形勢にある。徐州には
フォン・ゼークト將軍の設計に成る嚴重
なる近代的防禦が施されて居り、且下此
處には支那中央軍の精銳三十五個師團が
防禦してゐる。これに對して日本の精兵
が攻撃に當つてゐる。即ち文字通り日本
兵は一人よく十人に當る勢で敵を擊滅し
支那軍をして抵抗力を失はしめんとして
ゐる。かくして日本軍は敵の主力に大打
撃を與へ敵をして再び積極的活動を出來
ない様にする決心であるらしく徐州陥落
後は北支中支に亘る廣大なる占領區域を
確保し、後方のゲリラ戰を整理する必要
あり、徐州の一戦で敵を殲滅、大局を決
せんとするものゝ如く、これにより日本
は眞に極東の盟主たるの實力を世界に示
さんとしてゐるので。故に我々は徐州戰
に關する電報はそれが如何に短いもので
あつても世界の大事件として刮目して讀
まねばならぬ。

大宮西宮などの諸部隊は爽河寨の戦闘に於て敵兵を満載して城内に逃げ込まんとする二十四輪連結の敵列車をそのまま鹵獲狼狽せる敵兵三百を一兵も餘さず殲滅多數の兵器を分捕つた。

五月十九日 徐州攻略、輝く皇軍制勝に北支新政權の首都北京は俄然人氣沸立ち日

本人は勿論支那人も抑へ切れぬ欣びを面上に泛べ戰勝を知らせる傳單を競つて拾つてはにつこり、各方面では早くも嬉しい祝賀の催しに着手し軍樂隊は二十日午前十時から堂々祝賀演奏行進を行ふことに決定。

寺内最高指揮官は徐州方面において赫々たる戰果を收めつゝある我が作戦指導のため本十九日朝飛行機にて〇〇を出發一路第一線上空に至り親しく我が軍の奮戰力頗しつゝある實況を觀察し、我が作戦が豫期以上に有利且順調に進展しつゝあるを確認すると共に今次會戰の礎石を

に於て敵兵を満載して城内に逃げ込まんとする二十四輪連結の敵列車をそのまま鹵獲狼狽せる敵兵三百を一兵も餘さず殲滅多數の兵器を分捕つた。

五月二十日 此の日午後二時三十分頃敵機

數機は臨淮關を襲ひ爆弾十個を投じたが

何れも畠中に落下して我が方に損害なく

敵機は地上砲火を浴びて周章狼狽遁走し

た。

五月二十一日 津浦線東方地區を破竹の勢ひを以て南下中の〇〇部隊〇〇隊は二十一日午前九時十分徐州に到達續いて同部隊主力も同午後三時待望の徐州入城を終つた。

九日我が北進〇〇部隊が棗城占領以來敵は井戸といふ井戸には悉く青酸加里や毒物、細菌を投入せしめ百度を超える大のため本十九日朝飛行機にて〇〇を出發

軍將士を毒殺せんとするの非人道極まる

手段に出た。これがため我が軍は僅な休

息時間を割いて決死隊を編成し水利の地

點まで水探しに出かけ之を全軍に配給す

築いたる幾多の英靈に對し敬弔の默禱を捧げて午後一時三十分〇〇に歸還せり。

軍當局はいたく憤激し實證をあげて一般輿論に訴へる筈である。

五月二十二日 國民政府全國救濟委員會主席許世英は今次事變による支那側罹災民

は總數三千萬と概算される旨二十二日同委員會の聲明書で發表した。右聲明書によると支那政府が現在までに登録を終つて各省都市の避難民收容所へ收容せる者は生後一ヶ月の嬰兒から七十歳の老人まで合計百萬人に達してゐる。

五月二十三日 維新政府は義に教育部長陳

則民氏を江蘇省長に任命、省政府組織準備を命じてゐたが、徐州陥落し將に江蘇

全市の復舊その緒についた二十三日午後三時より維新政府代表陳群内政部長臨席の下に蘇州東北街省政府大禮堂にて成立式が行はれた。

徐州陥落直後の二十三日、日本並に外人代表記者は我が軍當局の斡旋の下に北

京、徐州、夾溝の空凡三百里を飛び幾多

皇軍の犠牲を拂つた戰線や炎熱下に彼我

交戦する最前線を観察した。＝軍報道部

の平岡大佐、阿部大尉、外國僕使よりホ

ワイト（米國エー・ピー）ファイシャー（米

國ユー・ピー）ロバートソン（米國ニニ

ヨーク・タイムス）ゲティ（米國イン

ターナショナル・ニュース）ヒルデブラン

ド（獨逸テ・エヌ・エ）ベルゲニー（伊

太利コリアデラセラ）ゴルマン（英國デ

リリー・テレグラフ）イストロム（瑞典

ストツクホルム）ベージャー（北京プレ

ス・ニニオン）の九君にアベヅク娘（獨

逸フランクフルト・ツアイツング）日本

記者四名、ダグラス二十四人乗りに搭乗

午前八時北京〇〇飛行場を出發十時五分

濟南着、同所からは報道部作參閑中佐、

前線放送に從軍中の苦米地氏（河西アナ

ウンサーも同乗、戰線を隈なく空から視

察して午後四時半北京に無事歸還した。

五月二十四日 輸出入品等ニ關スル臨時措

置ニ關スル件（法九二）中改正法律（法

律第八五號）公布

需給調整協議會令（勅令三六六號）公布

電力審議會官制（勅令第三六九號）公布

電力審議會規則（商工省令第二六號）

公布

陷落四日目の二十二日午前八時徐州北

停車場を發車南下した津浦線處女列車

（機關車二輛、客貨車三十輛）は途中鐵

橋の破壊箇所を修理しつゝ二十四日午後

一時宿縣に到着した。又二十三日午前九

時頃京包線（北京、包頭間）麥達昭驛西

方にあるベルギー系天主堂に日章旗を掲

げた八名の匪賊が侵入し來り神父ドウ・

イルダ師を拉致、附近山中に逃走した。

急報に接し目下日本軍が極力捜査中である。

去る十七日上莊（棗莊東北約十六キ

ロ）でドイツ人宣教師カルトネル師は共

産軍便衣隊のため拉致され行方不明とな

つた旨臨城天主堂ドイツ人カトリック宣

教師ヨハン・ベーツ師が二十二日棗莊の

我が關係機關に通報救出方を願出した。

去る四月二十四日山東省蘭陵鎮において支那軍のため拉致され安否を氣遣はれ

てゐたドイツ人カトリック宣教師アーウ

スト・ヘーデング師外一名は支那人二名

と共に二十一日日本軍の手で無事救出さ

れた。

五月二十五日 支那に於ける南北兩最高指揮官

聖上徐州戰を御嘉賞兩幕僚長宮殿下を召

させられ優渥なる御言葉を賜はつた。

今次ノ徐州會戰ニ於テ我軍カ迅速ニ優勢

ナル敵ヲ擊破シ赫々タル勝利ヲ收メ得タ

ルハ其作戰ノ計畫宜シキヲ得各部隊克タ

艱苦ニ耐ヘテ勇猛果敢ニ行動シ海軍航空

部隊亦適切ニ之ニ協力シタル結果ト認メ

深ク滿足ニ思フ

此旨將兵ニ申傳ヘヨ

我が軍の徐州會戰に於ける鹵獲彈薬は

左の如く驚異的な數字に上つてゐる。

一、七ミリ級小銃彈 九、三三、〇〇發

一、野砲彈 一、四〇發

一、山砲彈 一、五〇發

一、十五サンチ榴弾 一、二〇〇發

一、直發手榴弾 一、三〇〇發

一、曳火手榴弾 一、五〇發

一、七五ミリ戰車砲弾 一、〇〇〇發

一、二十三ミリ戰車砲弾 一、〇〇〇發

一、七五ミリ輕迫擊砲弾 一、〇〇〇發

一、八十二ミリ輕迫擊砲弾 一、〇〇〇發

一、十五サンチ迫擊砲弾 一、〇〇〇發

一、十キロ級爆弾 一、〇〇〇發

一、直發地雷 一、〇〇〇發

一、爆弾 一、〇〇〇發

五月二十六日

陸軍大將從二位 宇垣一成
勳一等功四級 任外務大臣

從五位池田成彬

廣田、賀屋、吉野三相の辭表は何れも御聽許あらせられ木戸專任厚相に對しては

左の如く官記が傳達された。
任文部大臣

任大藏大臣兼商工大臣
陸軍大將正三位
勳一等功四級荒木貞夫
男爵

文部大臣兼厚生大臣爵

五月二十七日

徐州市街の復興及び市内の
整理に努力を續けてゐる宣撫班では先日
來續々と城内に復歸しつゝある良民の増
加と自治的發展を促進するため過般來關

各機關と折衝中であつたが近く治安維
持會を設立することとなつた、その主な
顧問は大體土着の善良なる市民及び紅

方連絡會議たる自治委員會會議第一日は
二十八日午後二時より開催。○中支占領
區域内各地の自治委員會委員長四十五名
が維新政府絕對信賴の面持で遠路參集し
たのを始め政府側より行政院長梁鴻志氏
立法院長溫宗堯氏外各部長、日本側より
原田、野村陸海軍特務部長等出席。先づ
梁院長より開會の挨拶あつた後溫立法院
長、陳內政部長より夫々訓示、自治委員
會代表の答辭、原田少將の祝辭あつて同
三時閉會した。引續き二十九日、三十日

正會幹部より選出される模様である。

内務省官制中改正「防空ニ關スル専門委員會設置ノ件(五、二八、勅令第三七五號)

公布員第三七八二號)公布

社債擔保審査委員會官制(五、二八、勅令第三七七號)公布

公債擔保審査委員會官制(五、二八、勅令第三七八二號)公布

に亘り會議は續行される。

五月二十九日 寺内最高指揮官は二十九日

午前十時三十分〇〇基地發、空路北京に

歸還した。

黃浦江北岸地區一帶出沒して糧食掠奪

其の外暴虐無道を働き良民を苦しめ青天

白日旗を掲げて上海、杭州間鐵道沿線を

荒し廻つてゐた約二千の土匪軍に對し丸

山、邊見、田中、各部隊は炮軍砲艇隊と

協力して去る十七日より大掃蕩戦を開始

し漸次包圍陣を縮少しつゝ〇〇部落に追

ひ詰め數次に亘つて攻撃をなし巨砲を浴

せかけて壯烈な殲滅戦を展開した結果、

土匪軍は死體約七百及び軍旗、重機關銃

等多數を遺棄して遁走した。

五月三十日 北支における農業研究指導機

關の設立は農村復舊の先決要件としてつ

とに各方面より要望されてゐたが、この

程外務省文化事業部は現地各關係方面と

協議の結果義に議會の協賛を經た本年度

豫算五百萬圓の一部を以て北京に一大農

事試驗場を設立北支各地の農事試驗場の

統一指導に當らせる事となつた。

五月三十一日 支那軍に破壊された濟南紡

績工場等も既に晝夜運轉を開始し各企業

亦躍進の一途を辿りつつある。概況左の

通り。

一、紡績(イ)魯織紡 東洋紡にて運營

(ロ)仁豐紡 鐵紡にて運營 (ハ)成通

紡 東洋紡にて運營

一、製粉(イ)成記 日清製粉の手で運營

(ロ)寶豐 三吉製粉にて操業 (ハ)成

豐 豊年兩工場も近く三吉製粉の手で

操業

一、鐵業、炭礦 (イ)華豐炭礦 (磁蜜沈

禹莊) 興中公司が接收 (ロ)中興炭礦

(費縣大探折) 興中公司の手に接收

(ハ)玲瓏山金礦(招遠縣)爆破され目下

復舊に努力中 (ニ)古河合名の歷城沈

桃花莊ニツケル礦は近く操業開始豫定

今次徐州會戰に於て赫赫たる戰果を收め

たるは既報の如くなるが敵軍の大部は我

が猛攻により徹底的打擊を蒙り就中被包

圍下の敵は各級指揮官の逃走戰意の喪失

により全く潰亂して敗走を續けその一部

は武器を投げ便衣を纏ひて戰場内に彷徨

しありて其の戰力恢復は當分至難なりと

認めらる。五月二十四日迄に判明せる敵

に與へたる損害左の如し。

△敵に與へし損害約二四〇、〇〇〇△遭

棄屍體約一〇三、〇〇〇△戰利火砲九六

△同重機關銃二七〇△同輕機關銃八三二

△同小銃一七、四〇〇△同機關車八六△

同客貨車二、〇三一△同裝甲列車八△同

戰車裝甲自動車一四△同小銃彈丸、二五

〇、〇〇〇△同各種砲彈四四、五〇〇

右は直接我が方の手中に歸したるものに

して敵が所在に隠匿、遺棄せる兵器は無

數に上る見込なり。

六月一日 皇軍の行動を軍事的立場から觀

察しその戦跡を具さに研究する目的で各國

駐日大使館附陸軍武官並に輔佐官一行の

視察團が一日午後二時入港の上海丸で來

滬した。一行はペーカー中尉(英)ウエツ

カーリン大尉(米)ネーミツツ大尉(獨)チ

エボー少佐(佛)バグレスコ中佐(羅)で我

が陸軍の案内で明日より上海附近、南京
杭州その他日本軍奮戰の路を歴訪し視察
研究する。

六月二日 艦隊報道部二日發表 | 五月三十

一日夜芝罘海岸の陸戰隊は匪賊約千名來
襲すとの報に接し嚴戒中のところ同日午
後十時三十分芝罘市西部に夜陰に乘じ敵
襲あり、敵匪千名は二隊に分れ〇〇警備
區二ヶ所を分襲陸戰隊警備中の發電所に

も若干來襲せり、我が陸戰隊は直に行動
を開始し西砲臺方面に對する艦砲の射撃
と相俟つて六月一日午前四時頃までに敵
を擊退せり。午前六時に及び偵察の結果
西砲臺附近に敵影を見ず、本戰闘による

敵の損害多大にして發電所附近にカーキ
一色軍服の敵死體遺棄もあり、我陸戰隊
及び居留民に被害なし。

支那に於けるアメリカ人の所有財產返
還に關する日本政府の回答に對し國務省

は滿足の意を表した。右に關するアメリ
カ側の要求は五月三十一日駐日グルー大使
使を通じて行はねたばかりで各新聞はか
くの如く速かなる日本の回答振りは一般
の國債慣例から見ても異例の迅速さであ
るとし殊に日本政府が調査委員を現地に

派遣し、萬一不都合あらば滿足なる調整
の方法を講ずるであらうと言明したこと
に對し好感を示してゐる。

六月三日 陸軍中將從四位 勳一等功三級 板垣征四郎
任陸軍大臣兼滿事務局總裁

陸軍大臣兼滿事務局總裁
滿事務局總裁 杉山元

依願免本官並兼官

陸軍航空隊田中部隊では三日前十時

江蘇省高郵附近に蟠居し蠢動する敗殘兵
に猛爆撃を加へこれを潰滅した。

六月四日 國民聯善獎勵委員會官制
(勅令第四〇六號) 公布

北支臨時政府に建設總署が設置され
以來同署では道路の修建に銳意努力して
ゐたが同署がその第一着手として計畫し
た北京、長辛店及び豐臺間の道路改修は
いよいよ四日午後二時工事を開始される

こととなり同時刻西五里村で關係者列席
の上盛大なる起工式を擧げた。
六月五日 支那軍當局は最近左の如き逃亡
兵取締辦法を制定した。
一、各省市縣の國民黨部及び行政軍警機
關は逃亡兵取締りのため協同して偵緝
隊を組織し交通の要所に配備し嚴重取
締を勵行すべし、又必要に應じ戸口調
査をなすを得。

一、現役軍人の鄉里に歸還する者は所屬
部隊の證明書を要しこれを保甲長に提

出せしむべし

一、前記各機關にして取締りを怠りたる時は處分す

六月六日

遠山部隊は昨五日朝來開封に據れる敵兵を攻撃中のところ激戦の後午後八時半頃開封城東北角を占領せり。

開封城は五日午後八時半三義寨附近の敵包圍陣を突破したときに前進してゐた遠山部隊によつて完全に陥落薄暮の中原に皇軍の凱歌が高らかに奏せられた。遠山部隊は包圍突破軍の最先頭部隊として去る二日蘭封西方の一角で執拗な支那軍の包圍を衝き破つて以來二日間主力と共に疾風の如き行軍を續け四日の夕刻には早くも開封城東方三里の大文關附近に進出し、引續き肉薄を續け五日早曉を期して城内に撃る支那軍に對して東方及び東北方より我〇〇砲に協力し遂に總攻撃の砲火を浴びせ午後八時半遂に東北角城壁を打崩し、全軍雪崩を打つて城内に突

入陥落せしめた、開封城は黃河の河底より十尺も下にある平坦な平原上の都市であるため城壁の高さは十五六メートルもあるが、遂に敵へなく崩壊した。遠山部隊は昨秋保定の會戰で京漢線上を南下して涿州城の一一番乗をした勳功に輝く

部隊で今再び開封攻略の一一番乗りに成功し、感激のうちに城壁上で高らかに萬歳を三唱した。數分の後相踵いで横山部隊の一部は東北角の南側に梯子を掛けて城壁に攀ぢ登つた。續いて遠山部隊の主力は

六月八日
○〇部隊は六日午前九時北門附近より突入更に東方より攻撃し來つた〇〇部隊も梯子で城壁上に攀ぢのぼり城内に殺到、完全に同城を占領した。

六月八日

わが田上部隊は六日淮南炭坑を占領引續き炭坑一帯に亘つて殘敵掃蕩を行つたがその結果左の如き多數の軍需品を鹵獲した。

一、機關車四〇輛内三〇輛は使用可能
一、客車二一輛全部使用可能一、貨車四一二輛、内約一二〇輛は使用可能一、給水車二輛一、運炭車五〇輛全部使用可能
一、石炭五、三六〇トン一、枕木レール等鐵道用品多數。

六月九日
議會制度審議會官制（勅令第四一號）公布（水野總裁外委員任命）

〇〇部隊は徐州會戰以後津浦線南段幾多の破壊個所を晝夜兼行修理中の所略完成を見たので本九日を以て第一列車を通じるの運びとなり、茲に津浦線全線は完

全に開通するに至れり。

六月十日 同仁會は今回杭州に病院を開設し、數患者の施療に當る事となり、武正一博を院長とし十一日より元自治會施療所跡に開設、内科、婦人科、耳鼻科、眼科、外科、皮膚科、細菌科等の各部専門

專門醫師を擁し邦人看護婦十名も甲斐々々しく第一線に働く事となつた。

六月十一日 海軍陸戰隊の絶えざる努力によつて廈門島の治安は全く平靜に歸し八日

の復歸先發隊入港で復興氣運は漸く旺盛となりつゝあるが新生廈門の正しき復興を目指して豫て軍、總領事、總督府三者との間で協議を進めてゐた廈門復興委員會

が九日創立せられ同日陸戰隊司令部にて初會議が行はれた、同委員會は廈門復興の樞軸を爲す機關であり内、臺、支の避難民の復歸とともにその活動は注目され得る。

先に維新政府より杭州市長に何續氏を

任命したが十日同市政府の成立式が盛大に行はれた、同市政府は財政、社會、公安、工務の四局に分ち治安維持、戰鬥の

復興に邁進する事となつた。

六月十二日 板垣陸軍大臣は此日夕近衛總理大臣と荷窪の別邸に訪問し五時間餘に亘り事變處理の重大協議を遂げられた。

此日午前四時皇軍の一部は新鄉東南方の鐵道橋を爆破し京漢線を切斷したので鄭州は全く孤立に陥つた。暴戾飽くなき支那敗殘兵は十一日夜半から龍海線中牟西

方五里的地點に於て黃河堤防三ヶ所を破壊したので濁流滔々として奔流して居る。

六月十三日 我が漢口作戦の序幕たる安

慶攻略戦は我が陸海軍協力の下に神速果敢に遂行され、九日行動を開始し三日間に三百キロの大進軍を爲し安慶を占領せらるは史上空前の大成功であり實に一日百キロ進撃といふ世界戦史の新記録を作

つた。

十一日夜迄に安慶城に對し包圍態勢を行はれて同城に殺到、淒愴なる攻防戦が展開され天明を期して一齊に突撃に移つた。

我が部隊の一部は皇軍の果敢なる攻撃により破壊された城壁に迫り遂に十二日午前九時頃城内に突入、安慶一番乗の輝く日章旗を翻した、同時に海軍陸戰隊挺身隊も安慶下江棧橋を占領陸海軍部隊一齊に逐次城内掃蕩を進め同日午後安慶は全く我軍の確保するところとなつた。

この水路湖航作戦と呼應してさきに安慶北方の要衝廬州を占領したわが陸軍○〇部隊も大別山山系の丘陵重疊する山麓をひた押しに南下進撃、八日舒城を陥れ桐城を抜き安慶に迫りつゝある。安慶を中心とする同方面お敵は廬州より南下進撃の我軍に備へて我廬州占領の報にいち早く安慶北方の山嶽地帶の防衛に専ら主

知し得ずして漢口防備の前衛據點として重要視さるべき安慶をかくも脆くも拋棄せざるを得なかつたもので、これは又如以に我が水陸共同作戦が神速且緊密な聯絡の下に行はれたかを物語るものであらう。

六月十四日 古都歸德が陥落してから半月も廢墟と化してゐたとの街も皇軍の入城によつて次第に秩序を取り戻し住民の引返して來る者が多く六月十三日には宣撫班並に岩本警備隊長等の肝煎りで治安維持會も設置され親日家で元紅卽會副會長の胡劍氏が會長となり總務局、財務局、警務局、建設局等の機關も設置され青物市場も開かれ近日中には風呂屋、散髮屋等も維持會の手によつて開かれることになつてゐる。

揚子江進攻部隊は昨十三日安慶占領後更に進撃を續けつゝあり昨日早朝海軍陸戰隊は安慶江岸に上陸江岸地區を占領し陸

軍部隊と連絡せ確保す、昨日早朝上陸の海軍特別部隊は陸戰隊と連絡午前九時安慶飛行場を占領せり、海軍航空部隊は終日惡天候を物ともせず揚子江進攻部隊と共に爆力し江岸殘敵を爆撃し制壓すると共に進撃作戦を支援しその進出を援助せり。

「對支援助委員會」の廣東空爆反対週間は昨十三日ロンドン市内の反日示威行進を以て開始された、示威行進はキングストン教區監督スクラットン師を先頭にマーブル・アーチを出發、労働黨首アトリー少佐、上海大學歴史學王教授等も參加し口々に「日本品をボイコットせよ、日本に石油を賣るな」と叫びながら下院前迄練り歩き反日氣勢を擧げた後オーチャード街の「對支援助委員會」本部前で解散した。

六月十五日 黃河堤防の決潰個所から奔流する水は此日午後に至つて黄河の水準と並行するに至つた、何分にも地盤は軟かく決潰個所は刻々と擴大し一個所四百メートル位となり水も増加して朱仙鎮から〇〇附近に迫り中牟市街は城門を閉して水を防いでゐるが全く孤立の狀態となつてゐる、溺死者も二、三十萬といはれてゐるが實數は大體十萬と算せられ開封治維持會の修理班は三千名の苦力を動員して防水に努めてゐる、氾濫した濁流は賈魯河に流れ込んでゐるから周家口を經て淮河に注いで結局洪澤湖高郵湖に入り錢江の對岸から揚子江に入る新黄河が一ヶ月後には出來上るものと見られてゐる、なほ水幅の最大個所は中牟の東南方で七里もあり人畜の死傷せ素より農作物の損害も甚大なものである。

暴戾なる支那軍の堤防破壊による黄河の濁流はます／＼暴威を逞しうし決潰個所の幅一里餘、幅五里に亘る滔々たる濁水の帶となつて淮河上流賈魯河の流域の大湿地帯を浸し南十四に向ひつゝあるがそ

の速度一時間一キロ餘、一晝夜に三十キロ近く、その尖端は十五日既に開封南方九十キロの扶溝に達した、これがため先に皇軍の手に歸した〇〇縣城の如きは已に城壁の外側深さ五尺餘に達する濁水が洗ひ目下刻々城内に浸水しつゝある有様で、我部隊は凡ゆる危険を冒して水地獄の脅威に戰く哀れな支那住民の救出に努めてゐるが早晩この大氾濫にて被害を受けるべき下流の西華、周家口方面でも住民は續々避難を開始したと傳へられ、浸水域一帯の民衆は豫て抗日意識の徹底をもつて聞えてゐたが支那軍の暴虐と皇軍の仁慈との餘りにも生々しい對比の前に今更の如く日章旗に對する心服の念を強め皇軍と協力して水難排除に努力しつゝある。

此日午前四時頃山陽線和氣、熊山兩驛間（和氣驛東方約一キロ半、岡山縣和氣郡熊山村大字奥吉原字千田地内）を轟進中

の下關發京都行上り旅客一一〇列車の機関車が突如駆線顛覆北側の高さ四・七メートルある吉井川邊の築中に顛覆、修學旅行團等を加へ略定員の客を乗せてゐた十一車輛中第一から第五迄の各車輛は竹籠中に折重なつて大破第五番目の車輛の一部が下り線路上にはみ出してゐるところへ折悪く進行して來た島羽簽字野行下り旅客八〇一列車（十二車輛編成）が激突機関車の一部を破壊し上り一一〇列車の第一車輛目にゐた和歌山縣伊都郡橋本小學校訓、兒童等二十三名を即死させ、十一名重傷、五十餘名の輕傷者を出す慘事となつた、尙八〇一列車に乗つてゐた旅客は大した被害なく數刻後目的地に向つて發車した。

沼津から靜岡迄の並木は、何といつても松が第一でした。吉原、蒲原、由比、それから興津、ここいらは、松と富士がよくマツチ致します。その外、江尻から静岡までの間は、プラタナスの二つの並木、即ち昔からの並木と、新しく作られた並木と。その良否は、や、公孫樹の並木が眼をひきます。この二つの並木、即ち昔からの並木と、別と致しまして、富士を見る吉原を中心として、松並木が多いのは、何といつても、うれしいことであります。そして、これらの松並木が、いづれも古いのが、特に眼をひきます。よく茂る松並木の下を、富士を見つゝ歩くのは又格別の景色であります。

田中篤憲 共著「東海道」の一節